

科目責任者 川北 晃司 (倫理学研究室)

■ 教育目的

医療を担う上で期待される倫理観を知り、倫理的義務を大切にできる医療者としての専門職意識 (プロフェッショナリズム) を培う。現代における医療倫理の中心には、患者と医療者間の良好な意思疎通と情報提供がある。医療倫理とは、患者と医療者の双方を励まし、高める価値観であることを理解する。【卒業認定・学位授与の方針:YD-①、YD-④、YD-⑤、SD-④】

■ 学習到達目標

1. 医療倫理の社会的歴史的背景・目的・方法について挙示できる (知識)
2. 医療倫理とは具体的にどのような指針であるかを説明できる (知識)
3. 医療倫理に対するコンプライアンスの態度・習慣を評価、意図できる (知識、技能、態度)

■ 準備学習 (予習・復習)

予習：教科書該当ページを読み (20 分以上)、日頃から医療倫理関連ニュースに注目する。

復習：授業ノートおよび配布物を読み返し、疑問点を整理して質問できるようにする (30 分以上)。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入	医療倫理とは何か、ヒポクラテスの誓いの意義と限界	A(1)-①-1~2
2	人間・個人・生命の尊厳	人間・個人・生命の尊厳とは何か、尊厳の根拠	A(2)-①-1
3	権利・義務・美徳 (1)	Kant による義務分類、世界人権宣言、患者の権利宣言、薬剤師綱領、薬剤師倫理規定	A(2)-②-1~③-2
4	権利・義務・美徳 (2)	インフォームドコンセント、患者側での留意点、インフォームドアセント、守秘義務とその例外など	A(2)-③-3~4
5	早期体験見学の事前学習 (1)	QOL、処方、調剤、製剤、調製、治験など専門用語の意味	A(1)-②-1、-④-3~4、 A(2)-②-2
6	早期体験見学の事前学習 (2)	チーム医療、医薬分業、監査、鑑査、疑義照会など	A(1)-②-1、-④-3~4、 A(2)-②-2
7	医療倫理の現代史	ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言	A(2)-②-1、③-1~4
8	倫理学理論・生命倫理原則	倫理学理論と生命倫理4原則の意義と限界	A(1)-①-1~7
9	出生をめぐる倫理問題	着床前診断、出生前診断、新生児医療における生命倫理	A(2)-①-3
10	終末期と死をめぐる倫理問題	終末期医療、臓器移植、救急医療・災害医療	A(2)-①-3
11	先端医療技術	遺伝子医療、再生医療、脳神経倫理	A(2)-①-4、②-3
12	研究活動に求められる心構え	科学的研究手法の特徴、利益相反への対処	A(2)-④-1~3
13	プロフェッションの歴史と概念	プロフェッションとは何か。	A(1)-①-1~4
14	医療事故をいかに防ぐか	ビデオ教材「東京女子医科大学病院－医療の現場で何が起きているか」(NHK 総合、2003 年)	A(1)-①-3 A(1)-③-3~4
15	補遺	全体のまとめと補足、試験準備	

■ 授業分担者

川北 晃司 (No.1~15)

■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：質問を個別に受けつけ、解説・説明をする。

成績評価方法：期末試験 (70%) 及び受講状況・授業中のレポート (30%)

■ 教科書

『ヒューマニズム薬学入門』笠原忠・越前宏俊 共編 (培風館、2010)

■ 参考書

『生命倫理と医療倫理』改訂3版 伏木信次編 (金芳堂、2014)

『医療倫理学の ABC』第3版 服部健司・伊東隆雄 編著 (メヂカルフレンド社、2015)

『ビジネスの倫理学』梅津光弘著 (丸善、2002)

『うそをつかない医療』増補新版 豊田郁子著 (亜紀書房、2016)